



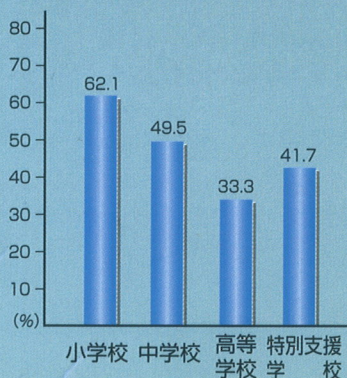
広がっています 島根のふるまいⅡ

ふるまい向上を意識した取組を することで成果が出ています!

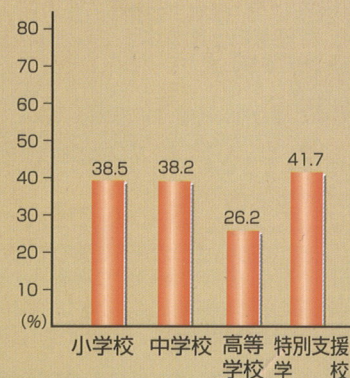
学校への「ふるまい向上プロジェクト」に係る取組状況調査から (平成23年9月実施)

平成21年度 (ふるまい向上プロジェクトに取り組む前) と比べて

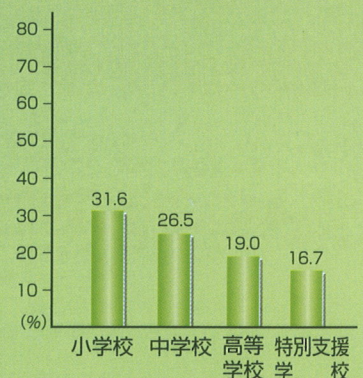
ふるまい向上に関することへの
教職員の意識が高まったと回答
した学校



児童生徒の「あいさつ」がよくなっ
たと回答した学校



児童生徒の「人を思いやる言動」
がよくなったと回答した学校



ふるまい向上の視点で取り組む

●浜田市立岡見公民館

ふるまい向上の視点でひと工夫

夏休み中(毎週火～金)には、児童クラブと保育所と一緒に公民館でラジオ体操をしています。そのあとには地域ボランティアさんによる読み聞かせです。この取組を続けることで、児童・園児・地域の方々の交流が進みました。
ふるまい向上が始まってからは、平日学校から児童クラブに帰ってくる子どもたちを迎えるときに「おかえりプラスひと声」を心がけるようにしています。児童の方から学校のことを話そうになるなど、よい雰囲気生まれています。



●島根県立三刀屋高等学校

学校独自の指導資料を活かして

「Step by Step～日々の生活の中で～」という学校独自の小冊子があります。あいさつ、言葉遣い、時間、身だしなみ、公共マナーなど9つのテーマがあり、年間9回その冊子を活用して指導する取組が長年続いています。



●掛合分校

地域と連携した活動を通して

保・小・中・高・地域と合同での清掃活動、社会福祉施設・交流センター等での窓ふきや清掃活動、小学校での絵本の読みがたり活動など地域と密着した学校の特性を生かし、地域での活動を積極的に行っています。このような活動を行うことで高校生自身の豊かな心を育むことにつながっています。

●大田市立志学中学校

総合的な学習の時間での人とのつながりを大切に

地域との有機的な連携をめざし、人とのつながりを大切に取組を展開しています。
特に総合的な学習の時間には地域の人々へのインタビューを取り入れた個人追究活動の時間を重視し、地域の人々との出会い・つながりをふるまい向上の視点でとらえています。地域の人々とのかわり合いを通して新たな気づき(発見)が創出され、親しみ、尊敬の気持ちが醸成されています。学習成果と合わせて、郷土愛を培うことで、「ふるまい向上」へつながる取組となっています。
生徒会主催の「チーム志学」による校内校外の美化活動も熱心に行われています。



広範囲での取組

●大田市立五十猛小学校

青少年健全育成宣言を軸に連携

小学校が、社会福祉協議会、まちづくりセンターと連携し、以前からある青少年健全育成宣言を活用して、ふるまい向上に取り組んでいます。
標語コンクールの実施や、ふるまい向上カレンダーを地域全戸配布するなどして、あいさつあふれる温かい登校風景になりました。
また大田警察署の「絆ノート」も活用し、家族の会話の推奨、規範意識の高揚に努めています。



●吉賀町青少年健全育成推進協議会

清流に つづけふるまい 日本一

吉賀町青少年健全育成推進協議会と公民館が中心になって、ふるまい向上の取組が進んでいます。町全体で「ふるまい標語コンクール」を実施し、たすきにして各地区へ配布しあいさつ運動で活用します。

- 《優秀標語》
- さわやかに 明るいあいさつ 吉賀町
 - 教えより 一緒に学ぶ ふるまいを
 - 清流に つづけふるまい 日本一

また、町として親学プログラムの活用にも力を入れています。

指導する側の考え方の見直し・共通理解

●益田市立美濃公民館 恒例の主催事業の中でふるまい向上策を実施

特に具体的な事業はありませんが、公民館主催事業に「ふるまい向上の主眼」を設け、普段からの意識化を図っています。

事業項目	事業内容	ふるまい向上の主眼
ふれあい運動会	小学校児童、老人クラブ及び保護者の三世代にわたる合同運動会	協力、協同、尊敬、ふれあい
通学合宿	公民館宿泊生活(3泊4日)、全校児童の参加、地域ボランティア協力	団体生活、指導力(高学年)、協調、感謝
＼	＼	＼
どんど焼き 見守り	しめ飾り等を持ち寄り焼却、伝統行事の紹介 登下校時の安全確保、声かけ、挨拶の励行	歴史認識、郷土愛、尊敬 あいさつ、感謝、順法精神

●出雲市立北陽小学校 共通理解、そしてめあてを絞って

校内に「ふるまい向上プロジェクトチーム」を立ち上げ、教職員の共通理解のために「ふるまい向上プロジェクト」のめあてを文章化して示しています。
さまざまなめあてをもち取り組んできましたが、3学期は、「だまって掃除!」のひとつだけをめあてにしました。そうすることで徹底強化でき、掃除に対する姿勢が見違えるようになりました。
教員にも子どもたちにも、ふるまいを大切にしている気運が高まっています。



●隠岐の島町立西郷南中学校 ふるまい向上推進計画

ふるまい向上主任(道徳主任が兼務)が、ふるまい向上推進計画を作成し教職員で検討しました。計画は、「教師」「生徒」「家庭への啓発・協力依頼等」の3分野で具体的な取組を提案するものとなっています。この計画により教職員でふるまいのとらえと実践項目の共通理解を図りました。
その後、ふるまいを意識した取組を各担当が進めています。

●島根県立松江ろう学校(高等部)

先生のマナーで気になることがあったら教えてください

副読本「私たちのエチケット」を活用して継続指導をし、学期末にはあいさつ、基本的な生活習慣、自主自立に関するアンケートを実施しました。その際、アンケート項目の中に、教員の気になるふるまいについての項目を設けました。
その結果「給食中の足組み、自分の話を最後まで聞いてほしい、ポケットに手を入れている。」などの声が上がりました。この結果を保護者懇談会などで報告し、生徒たちの手本になるべく教員のふるまい向上に取り組んでいます。

保護者への支援

●大田市立温泉津公民館

連携して子育て世代の仲間の輪をつくる

年に6回開催される家庭教育支援事業の「ゆのつ親子広場」、これを公民館単独で行うのではなく、温泉津子育て支援センター、温泉津保育所と協力して開催しています。こうすることで、地域の未就学児とその保護者を広くカバーでき、親同士の仲間づくりにひと役買っています。



●松江市立津田小学校 地域・保護者への働きかけ

「早寝、早起き、朝ごはん」、ノーマディア、あいさつなどに様々な方法で取り組んでいます。特にあいさつについては、PTAと合同で行ったり、四中校区で地域と連携してポスターを作成配布したりするなど力を入れています。運動期間中は、中学生が母校の小学校の昇降口であいさつ運動をする姿も見ることが出来ます。
また保護者への働きかけとして、入学説明会において「子育てワークショップ」を実施しました。「わが子へのかわり方で大切にしたいこと(親学プログラムから)」というプログラムを新入生保護者の皆さんが体験しました。保護者同士をつなげ、20を超える幼稚園、保育所等から集まる保護者の不安を和らげることが出来ました。
◎感想から
*参加した皆さん、同じ悩みや思いがあった。この会に感謝したい。
*子どもとの時間を大切に過ごしたい。人とのかわりを大切にできる子どもに育てたいので、親自身があいさつなど普段から自然にできるようにしていきたい。



●学校法人朋和学園 育英北幼稚園 めあてをもって、親子あいさつカード

毎学期2週間の期間を設け、親子それぞれにあいさつカードを渡してあいさつ週間に取り組みました。あいさつをしたかどうかを調べるだけでなく、各回のあいさつ週間でめあてを作りました。
【1回目】…相手の目を見て元気にあいさつをしよう
【2回目】…相手に気持ちが伝わるあいさつをしよう
【3回目】…あいさつの輪を広げよう
親子お互いが見ることで、それぞれにいろいろな気付きがあり、家庭や園以外のところでも気をつける姿が見られるようになり、気持ちのよいあいさつや温かい声かけが増えました。
◎感想から
*スーパーのレジでもありがとうが言えるようになりました。
*子どもに比べて、親のあいさつの声小さかったことに気付かされました。



広がっています 親学プログラム



隠岐の島町では…

隠岐の島町教育委員会では、「親同士の学びの支援」を行う親学ファシリテーターを6名養成しました。そして平成24年度に小学校新1年生となる幼児の保護者を対象に、**全小学校で就学時健康診断の機会を利用して**、親学プログラム(※)を実施しました。さらに3学期には**全中学校で、一日入学に合わせて**実施しました。

参加者からは、「みんなも同じ子育ての中にいるというのが話していて伝わり、楽しい時間が過ごせた。」「愛情をもってしつけをしないとイケないと思った。子どもが話を聞いて欲しかったら、まず自分も聞く体制をとるようにしたいと思った。」といった感想をもらいました。

大田市では…

公民館による子育て支援体制を充実させるため、大田市内7つの公民館では、7人の公民館主事が親学ファシリテーター養成講座を受講し、資格をもっています。親学プログラムを活用して、公民館において子育て支援に関する教室を行っています。また、市教育委員会や健康福祉部と連携し、市内の幼稚園、保育園小中学校、関連施設への出前講座(平成23年度18回)も実施しています。

親学プログラム普及のために、島根県立東部・西部社会教育研修センターでは、親学ファシリテーター養成講座を行い、親学プログラムが進行できるファシリテーターを平成22年度と23年度で県内に110名養成しました。

親学ファシリテーターの活躍により、平成22年度には51回だった県内の親学プログラムを活用した研修や講座が、平成23年度には、110回を超えています。子育ての不安の解消につながる仲間づくりに役立つなど、親学プログラムの有用性が認知されてきています。



※親学プログラムとは、保護者が親としての役割や子どもとの関わり方について、自ら気づき考えることを促すプログラムです。

・親学プログラムについてのお問い合わせは

東部社会教育研修センター
TEL 0853-67-9060

西部社会教育研修センター
TEL 0855-24-9344

ふるまい向上コーディネーターの活躍

乳幼児とその保護者への支援をしていくために、島根県教育委員会では、ふるまい向上コーディネーターを東部・西部にそれぞれ1名ずつ配置しました。

幼稚園・保育所へ訪問して、ふるまい向上県民運動の趣旨を説明したり、現状をうかがうなどの活動をしました。また、各園・所からの要請に応え、保護者向けの研修・講演、職員向けの研修などで、乳幼児期に大切にしたいこと、またその大切なことをどうやって身につけさせていくかのポイントなどを説明しました。

平成23年度の訪問箇所数は280か所を超え、講演講座の回数は60回を超えています。

平成24年度は、このような幼稚園・保育所からの要請にさらに対応するために、ふるまい向上指導員派遣事業として、県内各地にふるまい向上指導員を派遣いたします。